

平成30年7月豪雨災害

宇和島市災害ボランティアセンター 活動報告書



社会福祉法人 宇和島市社会福祉協議会

はじめに

西日本を中心とした平成30年7月豪雨は、全国で死者237名、負傷者433名、住宅被害は5万件以上（内閣府HP公表）にもおよぶ甚大な被害を受けました。宇和島市においては、吉田町を中心とした地盤の緩みによる土石流の発生や河川の氾濫、浸水により死者13名、負傷者29名、住宅被害は1,763件にもおよぶ被害を受けました。ここに改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

また、発災以降、宇和島市災害ボランティアセンターの運営にあたって、スタッフの派遣や支援金並びに物資の提供、そして多くの温かい励ましのお言葉など、多大なご支援をいただいたことに対し心から感謝申し上げます。

本会は、被災された方々が一日も早く日常の生活に戻れるよう、宇和島市災害ボランティアセンターを開設し、生活居住空間の復旧・復興を中心としたボランティア派遣などの被災者支援を約3ヶ月行って参りました。

また、宇和島市災害ボランティアセンター閉所後は、宇和島市地域支え合いセンターを設置し、被災者の安定的な日常生活の確保を支援して参りました。

今後でもできるかぎり地域の皆さまに寄り添い、個人や地域の支援を通して福祉のまちづくりに努めて参りますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

なお、この活動報告書は、本会が開設した宇和島市災害ボランティアセンターの運営や被災者支援活動などについて取りまとめたものになります。

本活動報告書の作成にあたりご協力をいただきました関係者の皆さまに心から厚くお礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和元年（2019年）6月

社会福祉法人 宇和島市社会福祉協議会
会 長 岡 野 昇

目 次

はじめに

第1章 平成30年7月豪雨及び被害の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 1 平成30年7月豪雨災害の概要
- 2 被害の概要

第2章 災害ボランティアセンターの活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- 1 対応経過
- 2 組織図
- 3 レイアウト
- 4 1日のスケジュール
- 5 活動状況
- 6 資材・車両
- 7 経費
- 8 協力団体

第3章 検証報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

- 1 役立った平時の取組み
- 2 活動の支えとなった良かった点
- 3 課題と改善事項や提案

第4章 社協が担うべき役割を果たすために・・・・・・・・ 30

- 1 課題検討会議で出された意見
- 2 課題と今後の取組み

参 考・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

- 1 新聞で振り返り
- 2 様式集

あとがき

第1章

平成30年7月豪雨及び被害の状況

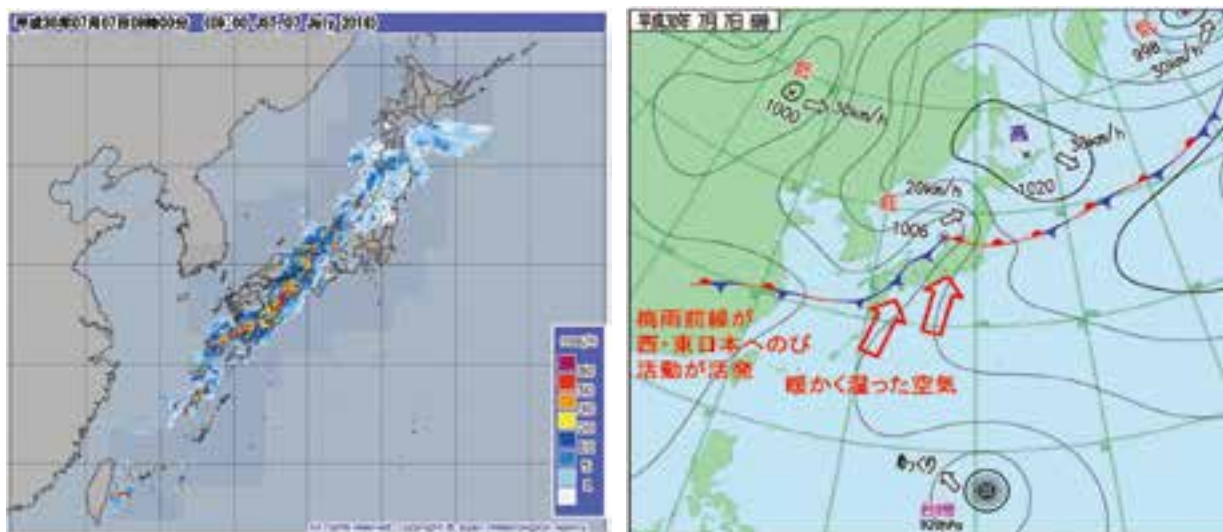
1. 平成30年7月豪雨災害の概要

(1) 気象の状況

6月28日以降北日本に停滞していた梅雨前線が、太平洋高気圧が南東に移動したことで、7月5日には西日本まで南下し、その後停滞、そして6月29日には台風第7号が発生し、太平洋高気圧の外側を回り込むように東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えた後、7月4日15時に日本海で温帯低気圧に変わりました。

これらの気象状況から、西日本地方では台風の影響による雨が7月3日頃から降り続いていましたが、特に7月5日から8日にかけては、西日本から東日本に停滞した梅雨前線に向かって台風7号の影響によりもたらした暖かく湿った空気が断続的に流れ込み、梅雨前線が活発化し、9日に北上して活動を弱めるまで日本上空に停滞し、西日本から東日本にかけて広い範囲で記録的な大雨となったものです。

図1 気象レーダーと天気図



出典 気象庁報道発表

(2) 大雨等の状況

6月28日から7月8日にかけての総雨量は、四国地方で1800mm、東海地方で1200mmを超えるなど、7月の月降水量平年値の2倍から4倍となりました。

本市においても7月5日から降り始めた雨は、7月7日には時間雨量100mmに迫る記録的大雨となりました。

気象庁観測所による県内の期間中降水量

(7月5日0時～8日24時)【単位：mm】

市町村名	地点名	7月5日	7月6日	7月7日	7月8日	期間合計
鬼北町	近永	80.5	132.0	221.5	137.0	571.0
西予市	宇和	70.5	178.0	229.0	62.0	539.5
西条市	成就社	103.0	224.0	118.5	23.0	468.5
今治市	今治	90.0	240.0	117.0	16.5	463.5
内子町	獅子越峠	87.5	189.0	153.0	32.0	461.5
今治市	玉川	64.5	240.0	108.5	14.5	427.5
今治市	大三島	75.0	207.0	117.0	15.5	414.5
八幡浜市	八幡浜	39.5	153.5	183.5	20.5	397.0
伊予市	中山	46.5	171.5	159.5	18.0	395.5
宇和島市	宇和島	39.0	88.5	186.5	67.5	381.5

出典 気象速報 松山地方気象台

※気象庁による宇和島市の観測地点：宇和島市住吉町

国土交通省等による宇和島市の主な観測地点の累加雨量

(7月5日2時～8日22時)【単位：mm】

観測地点	累加雨量	1時間あたりの最多雨量		
		日付	時間	雨量
津島（上楨）	919.0	7月7日	8時	53.0
津島（御楨）	666.0	7月7日	7時	37.0
三間（三間）	493.0	7月7日	7時	61.5
吉田（玉津）	469.0	7月7日	7時	91.0
吉田（吉田）	453.0	7月7日	7時	74.0
吉田（奥南）	372.0	7月7日	7時	96.0
津島（岩松）	352.0	7月7日	8時	52.0
宇和島	336.0	7月7日	7時	49.0
津島（由良）	327.5	7月7日	8時	80.5
宇和島(宇和海)	322.5	7月7日	7時	50.0

出典 国土交通省市町村概況(河川の水位と雨量の状況)

(参考) 宇和島市内観測地点(雨量計)位置図



(3) 警報等・避難勧告の発表（発令）状況

注意報、警報等の発表の状況、本市の災害対策本部の設置及び避難勧告の発令の状況は表のとおりです。

松山地方気象台等が発表した情報

(7月5日0時～8日24時)

日時 / 項目	波浪 注意報	雷 注意報	強風 注意報	洪水 注意報	大雨 注意報	洪水 警報	大雨 警報	土砂災 害警戒 情報	記 録 的 短 時 間 大 雨 情 報	大 雨 特 別 警 報
7月5日1時22分	○	○			○					
7月5日9時14分	↓	↓	○	○			土			
7月6日4時25分	↓	↓	↓	↓			↓	○		
7月6日4時49分	↓	↓				○	↓	↓		
7月7日2時32分	↓	↓				↓	土浸	↓		
7月7日6時28分			↓			↓	↓		○	
7月7日7時46分			↓			↓	↓		○	
7月7日15時49分				○			土	↓		
7月7日19時04分				↓			↓	↓		
7月8日5時50分				↓				↓		土
7月8日6時10分						○		6:05 解除		↓
7月8日14時50分		↓		○		↓	土			

出典 気象速報 松山地方気象台等

(補足)

浸：浸水害 / 土：土砂災害 / 土浸：土砂災害、浸水害

大雨特別警報：台風や集中豪雨によって数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表される。

土砂災害警戒情報：重大な土砂災害が起こるおそれがあるとき、気象庁と都道府県が共同で発表する警報。

記録的短時間大雨情報：数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測・解析したりしたときに気象台が発表。

宇和島市災害対策本部の配置・避難勧告等発令の状況

(7月5日9時～9日12時)

日 時	内 容	
	項目	対象地域
7月5日 9時14分	宇和島市災害対策本部設置	
7月6日 5時00分	避難勧告発令	津島町御槓、上槓、清満地区の土砂災害警戒区域等
7月7日 7時00分	避難勧告発令	市内全域の土砂災害警戒区域等
7月7日 9時00分	避難勧告発令	和霊中町ほか須賀川周辺地域
7月9日 12時00分	避難勧告解除	

2. 被害の概要

7月5日から降り始めた雨は、市内各所に浸水被害や土砂崩れを引き起こすなど未曾有の豪雨災害となり、本市では13人（直接死11人、関連死2人）の尊い命が失われるとともに、市民の財産、道路・河川・橋梁といった公共インフラ、商店や工場及び柑橘園地等の産業基盤等に甚大な被害が発生しました。

特に、吉田地区の河内川や立間川などでは流下能力を超えて河川の氾濫が起き、広範囲で浸水被害が発生するとともに、各所で多数の土砂崩れが発生し、建物や農地などが大きな被害を受けました。



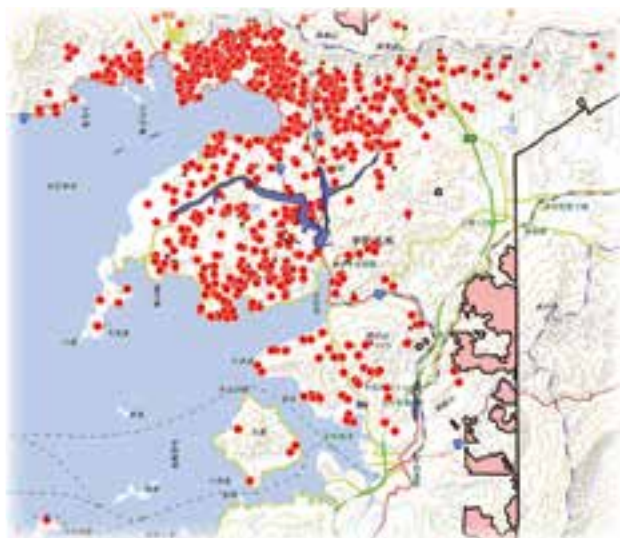
喜佐方地区



白浦地区

図2 浸水地区等の状況

図3 土砂移動痕跡判読



■ 浸水地域
● 土砂災害箇所

● 土砂移動箇所

出典 国土地理院※浸水地域：市加工

出典（株）パスコ

(1) 人的被害の状況

本市では、13人の尊い命が奪われ、29人の方が重度の負傷を負われました。

人的被害の状況（1月31日現在）

死亡	負傷
13人	29人
災害関連死2名を含む	被災見舞金申出者数

(2) 住宅被害の状況

河川の氾濫や土砂崩れにより、住宅の浸水や倒壊が多く発生し、特に被害が集中した吉田地区では、多くの市民が避難所生活を強いられることになりました。

住宅被害に関する一覧（罹災証明交付状況 被害有のみ）（1月31日現在）

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
全壊	3件	56件	2件	0件	61件
大規模半壊	2件	111件	1件	1件	115件
半壊	64件	709件	14件	16件	803件
一部損壊	157件	550件	57件	20件	784件
合計	226件	1,426件	74件	37件	1,763件

避難所の状況

（7月8日14時現在）

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
避難所	12箇所	24箇所	3箇所	2箇所	41箇所
世帯	37世帯	526世帯	54世帯	11世帯	628世帯
避難者数	67人	977人	92人	13人	1,149人

※宇和島市全体での避難者数等最大値

（３）生活基盤施設等の被災状況

土砂等による道路の埋塞や橋梁への流木の集積による河川氾濫が多数発生し、停電や断水が発生したほか、交通ネットワーク等が分断されました。

とりわけ、土石流により破壊的な被害を受けた吉田浄水施設では、吉田地区・三間地区への供給機能が失われたため、長期間にわたり断水に陥りました。

生活基盤施設等の被災状況

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計	備考
水道（断水）	－	9,867 人	5,450 人	－	15,317 人	最大値
		4,210 戸	2,358 戸		6,568 戸	
電気（停電）	1,571 戸	5,872 戸	780 戸	－	8,223 戸	最大値
道路	24 箇所	359 箇所	20 箇所	17 箇所	420 箇所	1 月 31 日現在
河川	76 箇所	431 箇所	10 箇所	40 箇所	557 箇所	1 月 31 日現在
小・中学校	2 校	4 校	－	－	6 校	浸水・土砂流入被害
保育所	1 園	3 園	－	－	4 園	浸水被害



奥白井谷地区



吉田浄水場

（４）産業等の被災状況

本市の基幹産業である第１次産業を中心に大きな被害を受けました。

また、直接的な被害にとどまらず、吉田地区・三間地区については、約１ヶ月断水が続いたことや、三間地区では、通水後も飲用可となるまでさらに１ヶ月以上を要したことにより、多くの産業に支障をきたす状況となりました。

① 商工業 (被害推計額：20 億 9,212 万円)

多くの事業所で店舗や生産設備などが被災し、市内中小企業 316 事業者が直接的な被害を受け、営業の休止や縮小を余儀なくされました。

中小企業の被災状況

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
被災事業	69 件	235 件	10 件	2 件	316 件

② 農林業 (被害推計額：農業 209 億 7,398 万円、林業 42 億 4,783 万円)

農業では、斜面崩壊や土石流により園地を中心に農地が 814 箇所、農道 664 箇所、モノレール 621 件などの被害が発生しました。

また林業では、山腹崩壊により林地 117 箇所、林道 6 路線の被害が発生しました。

農業の被災状況

施設等の被害状況		備 考	農作物の被害状況		備 考
農地	814 箇所	238.35ha	水稻	67.6ha	
農道	664 箇所		野菜	0.52ha	
ため池	49 箇所		果樹	535.5ha	
用水施設及び水	244 箇所		果樹樹	266ha	
モノレール	621 件	総延長 35,827m	家畜	74.5 千羽	

③ 水産業 (被害推計額：2 億 2,858 万円)

水産業では、9 漁港が被災し、土砂流入による陸上施設の損傷や、土砂の流入の影響によりマダイ等の養殖魚へい死被害が発生しました。

水産業の被災状況

施設等の被害状況		備 考	水産物の被害状況		備 考
漁港	9 漁港	14 箇所	マダイ等へい死	5.2 万尾	
土砂の堆積除去	10 箇所				

※上記①から③すべて 1 月 31 日現在の被害状況

【資料提供：宇和島市災害復興本部】

第2章

災害ボランティアセンターの活動

1. 対応経過

月日	対応
7月7日（土）	役職員参集 9名 会長、常務理事兼事務局長、地域福祉課長、愛生寮施設長 総務係長、第1地域福祉係長、地域福祉係1名 吉田訪問介護事業所主任、吉田居宅介護支援事業所主任 ⇒ 職員・利用者安否確認
7月8日（日）	<u>午前7：00 宇和島市より災害ボランティアセンター設置要請</u> <u>午前9：00</u> <u>社協災害対策本部 災害ボランティアセンターの開設を決定</u> 場 所：宇和島市総合福祉センター 駐車場：宇和島市総合体育館 午前11：00 現地確認（吉田支所、市街地）
7月9日（月）	<u>午後1：00 災害ボランティアセンター開設</u> ボランティア募集範囲：市内 宇和島青年会議所より資材提供 先遣派遣（県社協・ジャパンプラットフォームと協議）
7月10日（火）	<u>災害ボランティア派遣開始</u> 先遣派遣（県社協・※支援Pと協議）
7月11日（水）	午後7：30 宇和島市と協議 ～活動拡大に向けて～ エリア型戦略（※エリアマッチング） 宇和島青年会議所・外部支援者による拠点確保と地縁組織との連携
7月12日（木）	県社協・支援Pの派遣開始 ボランティア募集範囲 個人：四国内・団体：全国
7月13日（金）	午後4：00 宇和島市と協議 ～活動拡大に向けて 最終確認～ 宇和島市職員の派遣決定 福祉課1名・危機管理経験者1名 愛媛県内 応援スタッフの派遣開始 【延べ117人 9/30まで】
7月17日（火）	高知県内 応援スタッフの派遣開始 【延べ 43人 8/31まで】 ボランティア募集範囲 個人・団体：全国
7月27日（金）	松山市からボランティアバス開始（連日） 【延べ 1,351人 9/30まで】
8月1日（水）	<u>※サテライトの設置</u> （喜佐方共選場）
8月5日（日）	ボランティア募集範囲 個人：四国内・団体：全国
8月中旬	<u>※ポスティング作戦の実施</u> （吉田町内被害エリア） 訪問件数：2,094件 ニーズ：52件 民生児童委員への調査に基づく要配慮者への訪問 エリアマッチング代表者と現地確認

8月16日(木)	宇和島市・支援団体との情報共有会議を開催
8月21日(火)	宇和島市・支援団体との情報共有会議を開催
9月1日(土)	9月から災害ボランティアセンター週末型へ移行
9月3日(月)	ボランティア募集範囲 個人・団体：四国内
9月13日(木)	連合自治会吉田支部代表者会へ現状と方針説明
10月1日(月)	被災者見守り・相談支援事業の受託 「宇和島市地域支え合いセンターの設置」 (災害ボランティア業務含む)
10月4日(木)	ふれあい喫茶(東京都災害ボランティアセンター) 【延べ 1、265人 51回 12/1まで】
10月9日(火)	吉田地区民協定例会 現状確認と支え合いセンターの紹介
10月10日(水)	宇和島市・支援団体との情報共有会議を開催
11月19日(月)	災害ボランティアセンター 内部検証会議の開催
1月21日(月)	災害ボランティアセンター 外部検証会議の開催
2月12日(火)	災害ボランティアセンター 課題検討会議の開催

【用語の解説】

※「支援P」

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の略。当報告書では、特にその会から派遣された「活動支援アドバイザー」のことを指している。

※「エリアマッチング」

地域の方によるニーズ把握と地区代表者がコーディネーターとなり、ニーズとボランティアとのマッチングを行う。

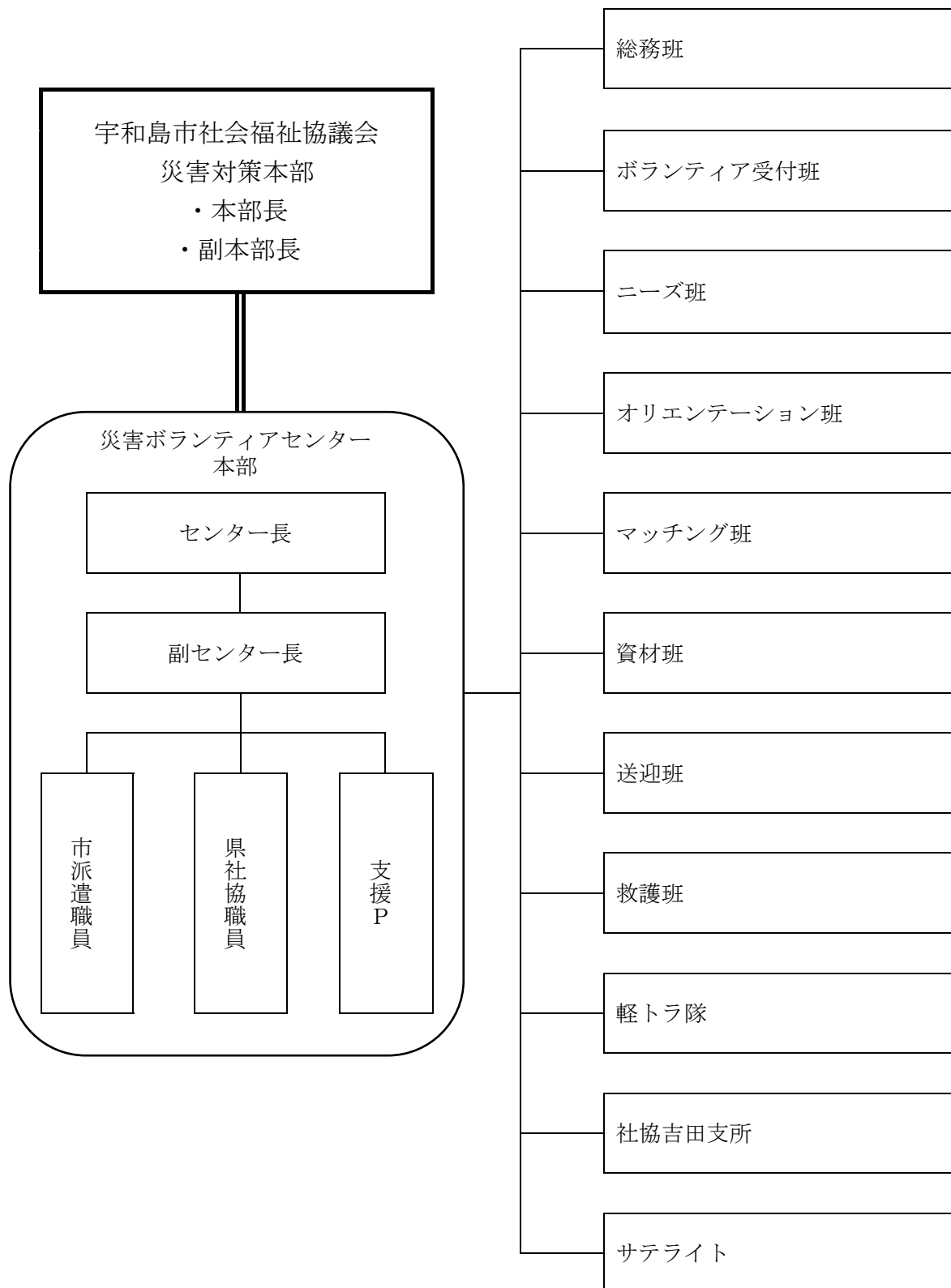
※「サテライト」

ボランティアの受入や資機材の補給機能など、本部の出先となる拠点。

※「ポスティング作戦」

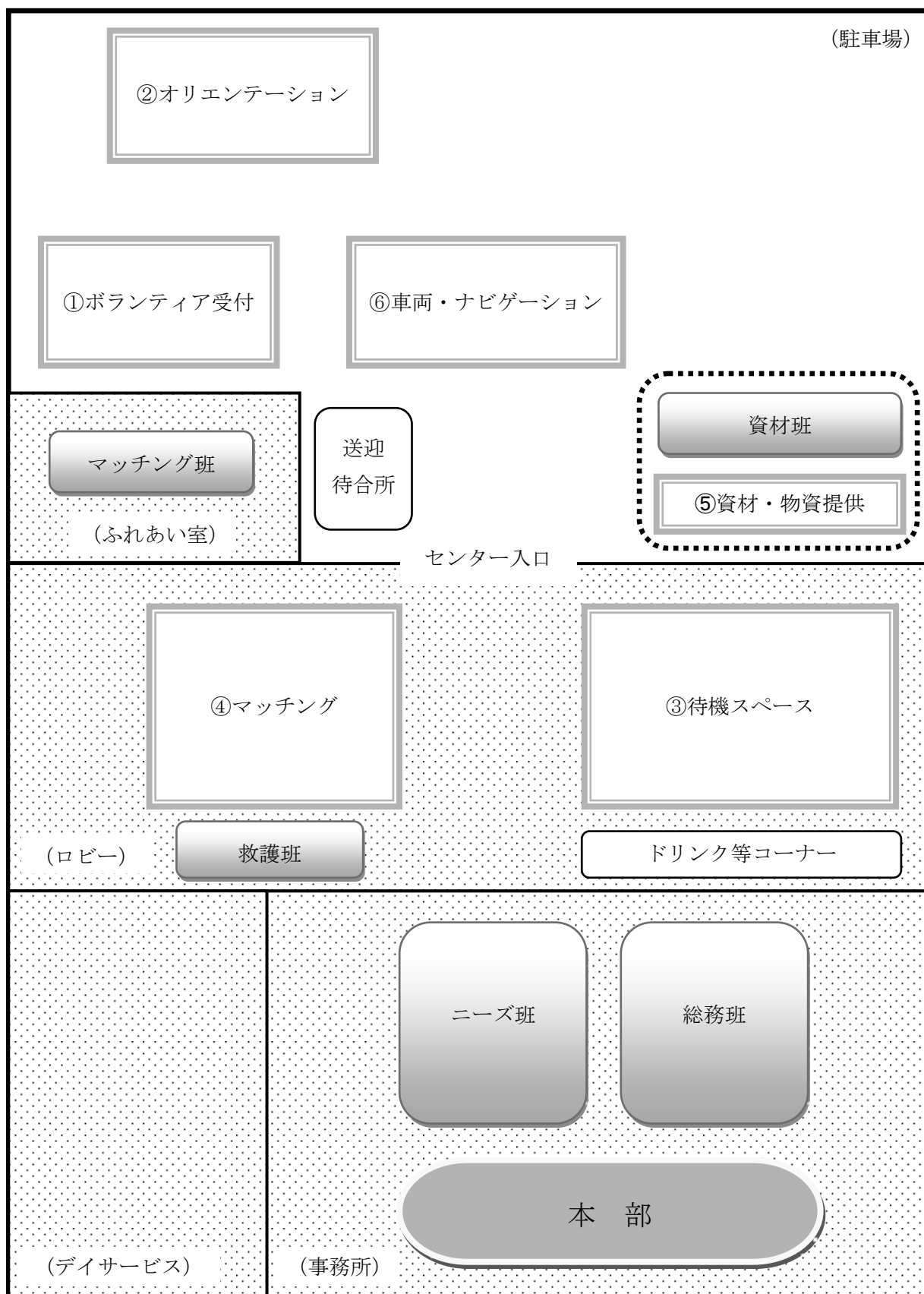
災害ボランティアセンターの周知や生活全般の困りごと把握、直接被害がないことなどにより遠慮や声を上げられないニーズの発掘を目的とした訪問活動。

2. 組織図



3. レイアウト

【宇和島市総合福祉センター 1 階】



4. 1日のスケジュール

開設時間 8：30～17：00

(ボランティア受付時間 8：30～11：00)

(防災無線によるボランティア募集・ニーズ受付周知放送 1日2回 9：00・18：00)

7：30	宇和島市総合体育館駐車場 開錠
8：00	スタッフ出勤 社協・行政・応援スタッフ
8：20	朝礼 前日の活動報告と本日の予定、ボランティアバスの確認
8：30	開所 ボランティア受付・派遣、ニーズ受付等
11：00	ボランティア受付・派遣終了
11：30	ボランティア受入数【速報値】
13：00	翌日開所に向けて天候確認【中止判断 14：00までに発表】
14：00	資材、消毒液、飲物等の在庫確認・発注
15：00	ボランティア活動終了 活動報告書への記入
15：30	ボランティア受入数【確定値】
16：00	社協災害対策本部長（会長）へ活動報告
17：00	閉所
17：15	スタッフミーティング センター長あいさつ、各班より報告、課題と対応策等
18：00	マッチング業務（翌日の予定、車両計画等） 【宇和島市福祉課、都市整備課、県社協へ報告】

＜活動の様子＞



ボランティア受付



オリエンテーション



待機スペース



マッチング



資材・物資提供



車両・ナビゲーション



活動現場



衛生管理



活動報告



救護班



ポスティング作戦



自治会長・連携団体との情報共有



ニーズ調査



現地調査



宇和島市・連携団体との情報共有会議



検証会議

5. 活動状況

(1) 災害ボランティア受入・対応ニーズ（延べ人数・件数）

開所月	開所日数	受入	対応ニーズ
7月	20日	4,598人	654件
8月	23日	4,487人	513件
9月	9日	493人	78件
10月	5日	98人	21件
11月	5日	50人	10件
合計	62日	9,726人	1,276件

※受入実人数7,990人

内訳 「県内：市内253、市外5,831、県外四国内736、四国外1,170」

(2) 完了ニーズ

地区		実件数
吉田町	吉田	196
	立間	110
	喜佐方	33
	奥南	104
	玉津	104
旧宇和島市内		5
三間町		9
津島町		1
合計		562



6. 資材・車両

資材				車両	
品名	数量	品名	数量	車種（定員）	台数
防塵マスク	大量	パール	40	中型バス（24～27人）	5
ゴーグル	大量	一輪車	60	マイクロバス（17～20人）	3
ゴム手袋	大量	ポリタンク	70	ワゴン車（7～9人）	7
土のう袋	大量	洗車ブラシ	70	普通車（5人）	3
スコップ	700	トロ船	7	軽トラック ※	10
てみ	180	高圧洗浄機	5		
バケツ	160				
ちりとり	100				
スクイーパー	70				
ジョレン・くわ	100				
デッキブラシ	120				
ほうき	120				

〔資材〕

赤い羽根共同募金災害準備金や支援金を活用して購入したものや、多くの個人・団体様より資材をお寄せいただきました。

〔車両〕

活動先までの送迎やサテライトとの調整等により車両が必要となりました。以下の団体様より、連日使用ができる車両の提供を受けたことにより、運営をスムーズに行うことができました。

- ・一般社団法人愛媛県バス協会 ・社会福祉法人宇和島市民共済会いこい
- ・株式会社愛媛日産自動車株式会社宇和島和霊店 ・ネッツトヨタ瀬戸内株式会社宇和島店
- ・株式会社青い国ホテル ・社会福祉法人愛生福祉会特別養護老人ホーム祝の郷
- ・社会福祉法人立正福祉会立正保育園

※資材や土のう、壊れた家具等の運搬作業を行うため、活動と合わせて軽トラックも多くの方から提供いただきました。



7. 経費

勘定科目		決算	摘要
収入	寄附金収入	1,575,009	支援金（44件）
	市補助金収入	8,508,195	協定書に基づき補助
	その他の補助金収入	3,000,000	いよぎんファンド 2,000,000 大和証券災害助成 1,000,000
	共同募金配分金収入	20,167,042	共同募金会
	収入計	33,250,246	
支出	人件費支出	8,508,195	
	事業費支出	24,469,909	
	事務費支出	33,030	
	固定資産取得支出	239,112	
	支出計	33,250,246	
収支差額		0	

〔寄附金〕

宇和島市民の皆様を始め、全国各地の皆様よりご寄附をいただき、宇和島市災害ボランティアセンターの活動費として使用させていただきました。

〔共同募金配分金〕

共同募金会では、災害の発生その他特別の事情があった場合に備えて、募金の一部を「準備金」として積み立てています。

今回、災害ボランティアセンターの拠点経費並びに災害ボランティア活動支援を目的として、配分金をいただきました。

ご支援ご協力をいただいた皆様に、ご報告申し上げますとともに、心から感謝申し上げます。

8. 協力団体

被災地での支援経験の豊富な方を始め、多くの団体・企業の皆様がご支援くださいました。ご協力いただきました皆様を把握する限り掲載いたします。なお、できる限り調査し掲載しましたが、ご協力いただいた方で掲載されていない場合は、深くお詫び申し上げます。

外部支援団体一覧 108団体（活動支援、運営スタッフ、施設・車両・物資提供など）
（順不同・敬称略）

ANAホールディングス株式会社 〔東京都港区〕	宇和島市立住吉小学校 〔愛媛県宇和島市〕
NPO法人CONCENT 〔大阪府大阪市〕	宇和島信用金庫 〔愛媛県宇和島市〕
NPO法人NEXTCONEXION 〔愛媛県松山市〕	エスエスケイ SHIPPING株式会社 〔愛媛県宇和島市〕
NPO法人YNF 〔福岡県福岡市〕	愛媛県建設業協会宇和島地方支部 〔愛媛県宇和島市〕
NPO法人グッドネーバース・ジャパン 〔東京都大田区〕	愛媛県建築士会青年女性委員会 〔愛媛県松山市〕
NPO法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク〔熊本市中央区〕	愛媛県生活協同組合連合会 〔愛媛県松山市〕
NPO法人ジャパン・プラットフォーム 〔東京都千代田区〕	愛媛県民球団株式会社 〔愛媛県松山市〕
NPO法人東北ボランティア有志の会香川 〔香川県高松市〕	愛媛県立吉田高等学校 〔愛媛県宇和島市〕
NPO法人バルビー 〔熊本県熊本市〕	愛媛県立宇和島東高等学校 〔愛媛県宇和島市〕
イオン株式会社 〔千葉県千葉市〕	愛媛県立宇和島南中等教育学校 〔愛媛県宇和島市〕
今治NPOサポートセンター 〔愛媛県今治市〕	愛媛県立宇和島水産高等学校 〔愛媛県宇和島市〕
宇和ライオンズクラブ 〔愛媛県西予市〕	愛媛県立津島高等学校 〔愛媛県宇和島市〕
宇和島観光物産協会 〔愛媛県宇和島市〕	愛媛県立三崎高等学校 〔愛媛県西宇和郡伊方町〕
宇和島商工会議所青年部 〔愛媛県宇和島市〕	えひめマンダリンパイレーツ 〔愛媛県松山市〕
宇和島市立喜佐方小学校 〔愛媛県宇和島市〕	えひめ南農業協同組合 〔愛媛県宇和島市〕
宇和島市立津島病院看護部 〔愛媛県宇和島市〕	日本郵便株式会社四国支社 〔愛媛県松山市〕

大分県日田市企画振興部まちづくり推進課 〔大分県日田市〕	日本労働組合総連合会愛媛県連合会 〔愛媛県松山市〕
神奈川レスキューサポートバイクネットワーク 〔神奈川県横浜市〕	日本労働組合総連合会香川県連合会 〔香川県高松市〕
鬼北町商工会青年部 〔愛媛県鬼北町〕	日本労働組合総連合会高知県連合会 〔高知県高知市〕
公益財団法人正光会 〔愛媛県宇和島市〕	日本労働組合総連合会徳島県連合会 〔徳島県徳島市〕
公益社団法人宇和島青年会議所 〔愛媛県宇和島市〕	ノバルティスファーマ株式会社 〔東京都港区〕
高知県建設業協会青年部連合会 〔高知県高知市〕	ひちくボランティアセンター 〔大分県日田市〕
高知県立大学 〔高知県高知市〕	藤村石油株式会社 〔愛媛県松山市〕
災害NGO結～Y u i ～ 〔沖縄県糸満市〕	末日聖徒イエス・キリスト協会丸亀支部 〔香川県丸亀市〕
西条石鎚ライオンズクラブ 〔愛媛県西条市〕	丸亀市立城辰小学校 〔香川県丸亀市〕
公益社団法人坂出青年会議所 〔香川県坂出市〕	三菱商事株式会社 〔東京都千代田区〕
四国地区曹洞宗 〔愛媛県西条市〕	明治安田生命保険相互会社 〔東京都千代田区〕
宗教法人創価学会 〔東京都新宿区〕	有限会社広見衛生社 〔愛媛県北宇和郡鬼北町〕
瀬戸内サニー株式会社 〔香川県高松市〕	ライオンズクラブ国際協会 〔東京都品川区〕
全日本自治団体労働組合愛媛県本部 〔愛媛県松山市〕	一般財団法人積善会十全総合病院 〔愛媛県新居浜市〕
公益社団法人高松青年会議所 〔香川県高松市〕	一般財団法人消防防災科学センター 〔東京都三鷹市〕
東峰村 〔福岡県朝倉郡東峰村〕	一般社団法人International Medical Corps Japan 〔東京都新宿区〕
公益社団法人新居浜青年会議所 〔愛媛県新居浜市〕	一般社団法人OPEN JAPAN 〔宮城県石巻市〕
日本共産党中予地区委員会 〔愛媛県松山市〕	一般社団法人愛媛県バス協会 〔愛媛県松山市〕
株式会社トリムワーク 〔東京都台東区〕	一般社団法人愛媛県空調衛生設備業協会 〔愛媛県松山市〕

学校法人大阪明星学園明星高等学校 〔大阪府大阪市〕	株式会社二宮工務店 〔愛媛県宇和島市〕
学校法人加計学園千葉科学大学学生消防隊 〔千葉県銚子市〕	株式会社フジ 〔愛媛県松山市〕
学校法人聖カタリナ学園聖カタリナ大学 〔愛媛県松山市〕	株式会社ホンダカーズ宇和島 〔愛媛県宇和島市〕
学校法人創志学園環太平洋大学短期大学部 〔愛媛県宇和島市〕	株式会社愛媛日産自動車株式会社宇和島和霊店 〔愛媛県宇和島市〕
学校法人松山聖陵学園松山聖陵高等学校 〔愛媛県松山市〕	株式会社愛媛銀行 〔愛媛県松山市〕
学校法人松山東雲学園松山東雲女子大学 〔愛媛県松山市〕	株式会社青い国ホテル 〔愛媛県南宇和郡愛南町〕
学校法人松山大学 〔愛媛県松山市〕	株式会社大塚製薬工場 〔徳島県鳴門市〕
学校法人神村学園専修学校 〔鹿児島県いちき串木野市〕	株式会社堀川林業 〔愛媛県宇和島市〕
株式会社ANAエアサービス松山 〔愛媛県松山市〕	株式会社ゼンリン 〔東京都千代田区〕
株式会社伊藤開発 〔愛媛県新居浜市〕	公益社団法人愛媛県浄化槽協会 〔愛媛県松山市〕
株式会社今治・夢スポーツ 〔愛媛県今治市〕	公益社団法人東かがわ青年会議所 〔香川県さぬき市〕
株式会社伊予銀行 〔愛媛県松山市〕	国立大学法人愛媛大学 〔愛媛県松山市〕
株式会社愛媛F C 〔愛媛県松山市〕	国立大学法人高知大学 〔高知県高知市〕
株式会社大塚製薬O S - 1 事業部 〔東京都千代田区〕	国立大学法人福島大学 〔福島県福島市〕
株式会社ザフル 〔東京都中野区〕	社会福祉法人宇和島市民共済会いこい 〔愛媛県宇和島市〕
株式会社ダイキアクシス 〔愛媛県松山市〕	社会福祉法人宇和島福祉協会 〔愛媛県宇和島市〕
ネットヨタ瀬戸内株式会社宇和島店 〔愛媛県宇和島市〕	社会福祉法人愛生福祉会特別養護老人ホーム 祝の郷〔愛媛県宇和島市〕
有限会社 安岡蒲鉾 〔愛媛県宇和島市〕	社会福祉法人立正福祉会立正保育園 〔愛媛県宇和島市〕
公益社団法人さぬき青年会議所 〔香川県丸亀市〕	天理教災害救援ひのきしん隊 〔奈良県天理市〕

第3章

検証報告

今回の経験を今後予測される南海トラフ地震など大規模災害への備えとして活かしていくために、平成30年7月豪雨災害によって設置した、宇和島市災害ボランティアセンター（以下「VC」という）の取組みを記録に残し、課題の明確化とその解決方法を検討していくために検証作業を行いました。

検証シートにより幅広く関係者の声を拾い、以下のとおり集約したので報告します。

【検証のポイント】

1. 運営体制

2. 人材

3. 資機材及び車両

4. 場所

【検証方法】

1. 検証シートにより課題等の洗い出しを行い、内部並びに外部検証会議を開催した。
対象者： 内部職員 35名 ・ 外部支援者 14名 （計49名）
2. 検証シート及び上記会議等の意見を整理・分類し可視化した。
3. 上記を踏まえて、運営指導に携わっていただいた支援Pを始め東日本大震災での支援活動者等を交え課題検討会議を開催した。

<役立った平時の取組み>

1. 運営体制

・行政等との合同視察及び研修の実施

熊本地震での行政・社協の対応方法を学ぶため、平成28年に宇和島市職員と社協職員の合同視察研修を行っていた。それを受けて、平成29年に民生児童委員・地区社協との合同研修会を開催していたこと。

・災害VC設置運営訓練の実施

平成29年に宇和島市災害VC設置・運営マニュアルに沿った訓練を行っていたこと。

・職員育成

愛媛県社協主催の災害VC中核スタッフ養成研修での実践経験を今回の災害対応に活かすことができた。

<活動の支えとなった良かった点>

1. 運営体制

(1) 職員派遣

- ・行政職員2名の災害VCへの派遣は、情報の錯綜を最小限に留め効果的だった。
- ・愛媛県・市町社協における災害時支援協定や四国ブロック各県社協災害時支援協定による職員派遣は、1クルルの期間が長く、業務を継続して依頼でき地元社協にとって大きな力となった。

[社協関係（運営スタッフ・活動支援）]

- 愛媛県内 12社協 実人数72人
- 高知県内 15社協 実人数43人
- 宮城県大崎市社協 実人数 4人
- 東京都災害ボランティアセンター 27団体 実人数51人

(2) 支援Pの派遣

- ・支援Pの派遣により、アドバイスいただくことで、先を見通しながら戦略的に運営を行うことができた。
- ・現地コーディネーター役やテクニカルボランティアの必要性を見極め、その役割が担える外部支援団体との連携体制を構築した。

(3) エリアマッチング

- ・校区単位・自治会単位など、臨機応変にエリアマッチングが行えた。

[深浦地区ほか11か所]

(4) サテライトの設置

- ・喜佐方共選場を拠点に、サテライトを設置することができた。

(5) ポスティング活動

- ・漏れのない情報提供や住民の声を拾う手法として支援Pからノウハウを学び実践できた。その中で支援が必要なケースに対して個別訪問を行い柔軟に対応できた。

(6) 現地調査

- ・応援スタッフ・外部支援者とともに実施でき、床下など専門的な見立てもできた。

2. 人材

(1) ボランティアバスの運行

- ・愛媛県や市町社協及び各種機関から手配いただいたボランティアバスにより多くのボランティアの参加を得て、地理的不利を克服できた。

(2) ネットワークの構築

- ・多くの外部支援団体と繋がり、柔軟に対応したことで、被災者支援の幅が広がった。

3. 資機材及び車両

(1) 資材の確保

- ・発災当初の宇和島青年会議所を始め、多くの企業団体からの資材提供があり、併せて行政派遣職員から調達業者の情報を提供してもらったことが、資機材の安定的確保につながった。

(2) 車両の確保

- ・行政からバス協会を通じた車両や関係団体からも提供を受け、輸送手段を確保することができた。また、軽トラックを持ち込み支援いただき資材運搬等の効率化が図れた。

4. 災害VC設置場所

- ・宇和島市総合福祉センターが被災地より離れていたため、設備が整っていた。そのため、マッチングしてから送り出しまでの流れがスムーズにできていた。
- ・宇和島市総合体育館の駐車場も広く、遠方からも参加し易かった。

<課題と改善事項や提案>

1. 運営体制

(1) 社協としての方針と体制整備

①発災当初の対応（職員と被災状況の把握）

【感じられた課題】
・安否と従事できる職員の速やかな確認が必要ではなかったか。 ・職員から被災情報を得る仕組みが必要ではなかったか。
【改善事項や提案】
・一斉に無料通信できるラインによる連絡網の形成が必要。

②情報整理と設置判断

【感じられた課題】
・被害状況の把握と職員による現地調査ができていなかった。 ・資材確保、受入態勢も十分ではなかった状況でボランティアを派遣していたように感じた。 ・災害V C運営や支所の復旧作業、通常業務などトータルして何を優先し、職員の特技や経験も勘案した職員配置を行っていくという、十分な協議ができていなかった。 ・立ち上げありきで、目の前の困っている住民の幅広いニーズに対しどう対応していくのか、社協としての方針が明確にされていなかったのではないかな。
【改善事項や提案】
・ボランティアの派遣イコール設置ではなく、現地調査やニーズ調査を行うところからでも「災害V Cの設置」だということの整理・認識が必要。 ・市と社協で齟齬がないよう、市災害対策本部に社協代表者（会長・管理職）の参加が必要。 ・社協災害対策本部で十分な協議による設置判断。 ・災害時の組織体制・指揮命令系統を明確にしたマニュアル改訂。

③体制整備とV C運営

【感じられた課題】
・南海トラフ地震による発災を想定した時、今回以上に職員の確保、行政との連携が困難になることが予想される。 ・本所と吉田支所の情報共有が難しかった。 ・現場対応と情報発信管理やマスコミ対応も重なり、時間に追われて丁寧な対応ができなかった。 ・今後のことを考えると、社協災害対策本部と災害V C本部の分散は職員不足と混乱を招く恐れがあるため、サテライトの効果的な運営検討が必要ではないか。 ・災害V Cの運営スタッフが少ないように感じた。 ・発災直後は多くのニーズが寄せられ、集約のための手作業による地図作成及びボランティア

派遣先の調整に苦慮した。 ・ サテライトと本所の役割分担や連携、統括を強めておけば更にスムーズな運営になったのではないかと。
【改善事項や提案】
・ 災害対応は、組織全体の問題と考え、係長以上の職員の情報共有の場が必要。 ・ 各班にリーダー・サブリーダーの配置。 ・ 支所との連携方法の検討。 ・ 総務系と現場系のニーズ班・マッチング班など役割分担の明確化。 ・ サテライトの効果的設置、拠点整備と運営に関して、団体等との連携と役割分担が必要。 ・ 企業や各種団体との合同訓練や役割を明確にした協定書が必要。 ・ コーディネーターの配置やボランティアの受入体制など、地縁組織との連携が必要。 ・ エリアマッチングの推進。 ・ 土地勘のあるスタッフの配置が必要。

④普段からの職員育成

【感じられた課題】
・ 臨機応変に対応できる職員の配置が必要。 ・ 一定レベルの業務が担える職員の不足により、ニーズのデータ化・完了確認、資材、配車計画など業務の流れ的にマッチング班の負担が増えた。また、その対応に経験豊富な職員が追われたため、各班に偏りがあった。
【改善事項や提案】
・ 所属に関係なく組織全体のスキルアップを図るため、計画的な災害V C運営者研修への参加が必要。 ・ 平素から被災地を経験しておくことが重要であり、業務を調整し積極的な参加が必要。 ・ 事務局職員のみならず、介護職員なども含めた組織全体の研修企画。 ・ 職員のスキルアップも兼ねて部署横断型の研修企画チームの編成。 ・ 普段から部署間の連携強化を図っていくために、情報共有や学びの場が必要。

(2) ニーズに応じた活動範囲の設定

【感じられた課題】
・ 発災当初、土砂災害が酷く、宅地内のボランティア活動であっても敷地が広く活動対象範囲を明確に示せなかったため、ボランティア派遣ができるニーズの線引きが難しかった。 ・ 土砂対応ニーズの多さに圧倒され、被害状況・高齢者世帯などを考慮したニーズの優先順位が定まらず、要配慮者支援の方向性が見えなかった。 ・ 床下浸水の対応について方針が徹底されなかったように感じた。 ・ 産業、生業支援や行政責任に係るものなど、災害V Cの活動対象にならないものの線引や説明が難しかった。 ・ ボランティアを受けるには申請が必要であることが、住民に十分に周知されていなかったの

ではないか。 ・支援を受け入れない方への対応に困った。
【改善事項や提案】
・早い段階でのポスティングの実施や専門職との連携による避難所も含めたニーズ把握が必要。 ・発災後には、速やかな現地調査が必要。 ・災害時に必要なボランティアの整理。 ・住家や要配慮者を優先とするなど、基準の作成。 ・社協の本質を大事にしつつ、災害VCとしての対応範囲をあらかじめ方針として決定しておくことが必要。 ・社協災害VCとして、要配慮者支援についての方向性を決定しておくことが大切で、専任の担当を置くことも必要。

(3) 情報発信

【感じられた課題】
・マスコミ、SNS対応は、反響も大きいので一括して責任者を決めていたが、現場対応・マスコミ・ボランティアの問合せの多さに十分な対応ができなかった。 ・丁寧な情報発信ができなかったことにより、SNS上で批判投稿を受けた。 ・ボランティアの受入縮小時など、ボランティア側への配慮が欠けていた。 ・ホームページやフェイスブック上でボランティアの受入状況などリアルタイムで情報が取りづらかった。
【改善事項や提案】
・指揮命令系統、役割分担の明確化。 ・SNS投稿対応に苦心したため、情報発信について備えておくことが必要。 ・情報発信（IT）を学ぶ機会の確保や今以上に平時から事業、活動を積極的に情報発信していくことが必要。

(4) 宇和島市との役割分担

【感じられた課題】
・災害前から、「ひと・もの・かね」の担保を目的として宇和島市との協定書の交渉を行っていた。発災時、協定の準備中だったため、役割分担や先行きの不透明感が否めなかった。 ・市と社協の役割分担に関して事前協議が不十分であったことから、ボランティアに関する事柄の受け皿が全て社協になってしまった。
【改善事項や提案】
・災害対応と同時進行で交渉を進め協定書を締結したが、更に役割分担の明確化が必要。 ・被災情報や災害時の要支援者等の個人情報共有など、平時から検討しておくことが必要。 ・被災者の視点に立った多様な活動を行うため、ボランティア活動支援やコーディネートなどにおいても連携を深め、相互に協力して対応することが必要。

2. 人材

(1) 企業・NPOなど外部支援者との連携

【感じられた課題】
・床下など専門的な現地調査は、職員だけでは難しかった。 ・地元ボランティアとのつながりが弱いように感じる。 ・外部支援者との調整が不十分だったのではないかな。 ・農家の被災に関して、JAとの連携が不足していたのではないかな。 ・金融協会は中期的、安定的にボランティア人員を災害VCへ派遣していたが、宇和島市からの要請で別の配置についた。時間帯や日によっては暇な日も多く、もったいない印象を受けた。 ・ニーズとのマッチングがうまくできず、来てもらったボランティアを帰さざるを得ないことがあったが、外部支援者と調整すればマッチングできたのではないかな。
【改善事項や提案】
・現地調査など見立てのできる団体等との連携と役割分担が必要。 ・専門的な見立てのできる外部支援者に依頼し、床下など作業面を学ぶ機会が必要。 ・地元ボランティア団体との連携強化。 ・災害VC運営の大部分は外部支援者で対応できるため、ボランティアスタッフを募集し地元社協職員が地域に出向き現地調査できる工夫が必要。 ・住民に寄り添った効果的な支援につなげるためにも、社協災害VCができることと、企業・NPO等ができること（重機・軽トラ・床板剥がしなど）が共有できる場が必要。 ・フェーズに応じた支援の優先順位などについて、連携団体・ボランティアリーダーなどと共有する場が必要。 ・今後については、金融協会のようなグループとあらかじめ連携しておくことも必要。 ・ニーズの掘り起こしをボランティア・連携団体と行うことが重要。

(2) ボランティア及び地域キーパーソンの配置

【感じられた課題】
・エリア対応できるようなボランティアリーダーの育成が必要ではないか。 ・地域にキーパーソンが必要ではないか。 ・現場で指揮をとるリーダーが不在であった。
【改善事項や提案】
・地元のNPOや企業、ボランティア団体とのネットワークづくりが必要。 ・地元のNPOや企業、ボランティア団体と災害時の役割について、シミュレーションを行っておくことが必要。 ・地元での災害ボランティアとボランティアリーダーの育成が必要。

3. 資機材及び車両

【感じられた課題】
・資機材の確保に関して、団体等との連携と役割分担が必要ではないか。 ・初動期における十分な資材確保がボランティアの活動にも影響を与える。 ・道具がどれも重たく女性用の扱いやすい物も必要だったのではないか。 ・もう少し輸送車両の確保が必要ではなかったか。
【改善事項や提案】
・今ある資機材の保管と調達ルールの整備、青年会議所などとの役割分担により速やかに準備が整うような備えが必要。 ・行政や関係団体との実質的な担保のある協定の締結などが必要。 ・今ある資材を市の倉庫などで保管し、災害時に近隣市町も含めて貸出できるストックヤード機能を担うことも重要。

4. 場所

【感じられた課題】
・宇和島市総合福祉センターでの開設となったため、吉田地区までの移動に相当の労力及び時間を要することとなった。 ・利便性は良くないが、吉田支所を起点とした方が時間を有効活用できたのではないかな。 ・被災した地域から距離がある場所に本拠地を置いたため、オペレーションが難しくなった。 ・センターと被災者（被災地域）の物理的な距離が、効率よく現地のニーズを吸い上げることがを阻害した可能性もある。被災者が気軽に困りごとを相談できない上に、センター内からは逐一被災地域の様子がわからないため、現地とセンター内（スタッフ）の中で温度差が生まれていた可能性もあるのではないかな。距離によって生まれたズレによって、細やかな支援が難しい環境にあったのではと思う。 ・災害VCの運営が、「ボランティアの募集と送り出し」に一番手を取られてしまい、肝心の「現地被災者の困りごとを解決する、寄り添う」という側面が弱かったと感じた。 ・もう少し広い場所の方がボランティアの数も多く受け入れ、マッチングの際にも便利だったのではないかな。
【改善事項や提案】
・災害種別、旧市町単位で開設候補地を複数選定しておくことが必要。 ・今後、津波被害も考えると、災害VCの本部を三間支所に置くことも念頭に準備を進めることが必要。

第4章

社協が担うべき役割を果たすために

南海トラフ地震など、今後も想定される大規模災害に迅速に対応していくため、今回の取り組みから見えてきた検証内容を整理・分類しました。それを踏まえて今後の対応について、有識者等を招いた課題検討会議を開催し、提言内容をまとめました。

大規模災害時に、社会福祉協議会がどのような役割を果たすべきなのかを現段階でできるだけ明確にし、今後の取組みを進めます。

1. 課題検討会議で出された意見

(1) 方針の決定プロセスについて

非常事態になったら混乱する。組織として大事なものは、状況確認・協議・意思決定のプロセスである。方針を決めていく上で必要な項目のチェックリストを準備しておくことが必要であり、BCPの課題でもある。

(2) 検証による課題と今後の災害VCマニュアル改定について

マニュアルの改訂を予定しているのであれば、今回の検証による課題と今後の災害ボランティアセンター運営マニュアルは切り分けて考えるべきではないか。同じ災害は二度と起きないし、次の災害でもこれが正しいのかという決断はそうではない。これを基に細かくマニュアル化してしまうと、逆にそれに縛られて考えなくなり、今度はマニュアルが弊害となる。

災害は、常に柔軟性を持って次々判断していくことが大事なので、考え方の整理が必要ではないか。

(3) 社協の役割について

今回の災害でも、地域の中に助け合い活動が沢山あるはずなので実態を把握し、その活動を高めていけるように支援していくのが社協の役割ではないか。

今後においても、社協の地域づくりの延長線上に防災もある。普段、困っている方や気になる方に対して地域で支援できる仕組みをつくり、得意分野である制度の狭間や隙間の支援について考えた上で、社協が地域防災に係る意義というのを行政と詰めていく必要があると思われる。

(4) 災害VCの運営で地元社協がやるべきこと

極端な考え方にはなるが、受付・オリエンテーション・資機材・送迎は外部団体に任せてもよい。何を優先的にやるべきか考えた時に、現場をしっかりと回ってニーズをくみ上げること。マッチングできるのは社協の得意分野であり、地域の方と顔もつながっており、土地勘もある。

地元社協が外部支援者とペアで現地訪問やニーズ調査を行うことができれば理想的である。

現場確認と情報受発信、この二つを地元社協がしっかりできていると、安心感が増す。

(5) フェーズに対応できる職員育成について

フェーズに応じた支援で、「初動支援」「運営支援」「生活支援」があるが、発災後2日間程度で災害VCの設置に向けた初動支援ができる人は限られる。初動は経験も必要で、仕組みがつくれ

る人材を育成することが重要である。

(6) 場所の問題について

今回は、断水の影響で、水が使えなかったことが吉田町でサテライトの早期設置に至らなかった最大の要因であったが、今後は、自衛隊の拠点や災害ゴミ置き場などと重複しないように、平時から行政と情報交換しながら考えておく必要がある。

災害VC開設候補地については、必要設備等について羅列したチェックリストにより、事前交渉を行っておくことが重要である。

(7) 車両の活用方法について

ボランティア派遣に向けた前日の準備に相当な時間と労力を要した。その要因は計画運行しか認められないバスにあったのではないかと。バス停・時間設定、人数と受入先の調整が必要となり準備に時間を要した。

また、ボランティアの車も活用し、現地に乗り入れも検討したが、市街地での駐車場の問題や道路事情・緊急車両優先により警察等の指導もあり実行に移せなかった。

バス運行について、計画運行ではなく、柔軟に活用できる方法を求めた方がよいのではないかと。

2. 課題と今後の取組み

(1) 災害ボランティアと地域リーダーの養成

発災当初、土砂崩れにより道路が寸断され現地確認もできず情報が乏しい中、安否確認や通常業務と災害対応業務との調整、それと同時に開設場所の確保と早急な運営体制の構築が求められ、マスコミやボランティア希望者からの問合せも殺到し対応に追われた。

また、本部と現地が離れていることから、被災地域の状況が把握しづらいことや多くのボランティア派遣に時間と労力を要し、災害VCの運営に傾注するあまり、地域に出向いてニーズを集めることも十分にできなかった。

しかし、家族・親戚・知人等による助け合い活動のほか、地縁組織による地域一体となった助け合い活動が行われた地区もあった。その拠点がサテライト的な機能を担い、災害ボランティアセンターと連携することで効率的な支援活動につながり、復旧作業が進んだ大きな要因と言える。

今後の取組み
●地域の関係団体との連携と普段からの関係づくり ・地縁組織（自治会・民生児童委員など）やNPO・企業・団体と災害VC合同研修会や運営訓練の実施及びキーパーソンとのネットワーク構築 ・災害ボランティア養成講座の開催及びボランティア登録の推進 ●災害VCの周知・啓発 ・地区社協研修会や地域の関係団体が開催する学びの場での周知 ・地域のイベント時での啓発（活動写真等の展示） ・ホームページや広報紙での啓発

(2) 行政との連携

宇和島市災害ＶＣの開設候補地は、地震・津波を想定していたことやサテライト機能の必要性を明確に示していなかったため、旧市内及び三間町エリアの公共施設を候補地としていた。

また、全体的な被害状況の把握や設置判断・課題や方針の共有など宇和島市災害対策本部との連携に不十分さは否めない。

本部が現地から離れていることもあり、被災地域の状況が把握しづらく、ボランティア活動の送り出しにも相当な時間と労力がかかった。

今後の取組み

●市災害対策本部と災害ＶＣとの連携強化

＜市と社協による協議＞

- ・災害ＶＣ開設候補地の確認
- ・災害時の情報共有のあり方
- ・資材確保などの役割分担

(3) 運営体制について（指揮命令系統・職員育成）

既に策定していたマニュアルにおいても、指揮命令系統及び責任の所在が曖昧だったこともあり、十分な体制を整えることができなかった。

また、災害ＶＣの中核が担える職員不足から、スタッフ間の情報共有や連携が円滑に行えないことや、状況に応じて即断即決できないことから更なる混乱や対応の遅れを招いたことも多々あった。

今後に備えていくためにも、災害時の組織体制の整備と一定のレベルが担える職員の育成を図りたい。

今後の取組み

●災害時の組織体制の見直し

- ・災害時における職員体制の明確化
- ・宇和島市社協役職員災害対応マニュアル並びに宇和島市災害ＶＣ設置・運営マニュアルの一体的見直し

●運営者としての職員育成

＜適切な指示・判断が担える職員の育成＞

- ・全社協主催災害ＶＣ運営者研修等への参加
- ・ニーズや必要とするボランティア支援、活動状況など、適切な情報管理と効果的な発信が行える職員の育成

参 考

【新聞で振り返り】

【様 式 集】

【新聞で振り返り】

愛媛新聞社提供
〔平成30年7月10日（火）6面〕

ボランティア 受け入れへ

今治・西予・宇和島社協

豪雨災害を受けたボランティアの受け入れに向け、今治、西予、宇和島3市の

社会福祉協議会が9日、災害のボランティアセンターを立ち上げた。宇和島市は同時に市民を対象にボランティアの受け付けを始め、西予市は11日から市内在住者を対象に募集する方針。今治市は被災者の支援ニ

ズを聞き取るなどしている。ほかに大洲市の社協は10日にセンターを開設し、本格的な募集を開始する予定。鬼北町は設置を検討している。

県社協（松山市）も9日、

県災害ボランティアセンターを立ち上げた。情報発信や資機材の提供などで、ボランティア募集の直接の窓口になる各市町のセンターを後方支援する。

県社協の担当者はボランティアの心構えについて、

自己完結が原則で、食料や水などを確保して参加するようアドバイス。各市町の際には「被災者の生活再建が一番」ということに留意してほしいとした。

（松本尚也）

古里復興奉仕の汗



被災者宅へ出向き、ボランティア活動に
精を出す宇和島東高生。10日午後1時半
ごろ、宇和島市古田町立間尻

宇和島 ボランティア活動開始

豪雨により甚大な被害を受けた宇和島市吉田地域で10日、市社会福祉協議会が募ったボランティアが活動を始めた。参加した30人以上の市民は、被災地の惨状に心を痛めつつ、汗を拭いながら作業に没頭した。

同社協は市民限定で9日に募集を始め、10日から現地活動をスタート。同日午前8時半、受付窓口の市総合福祉センター（住吉町1丁目）に集まった市民は、土砂除去や給水作業の補助など具体的な活動の指示を受け、依頼を受けた現場に向かった。

民家で泥のかき出しをした40代男性は「写真など

で見ていたが、悲惨な状況で驚いた。宇和島ではないみたい」と絶句。「微力だが自分にできることをしたい」と黙々と作業を続けた。

高校生も多く、午前中のみの登校とした宇和島東高からは野球、サッカー、ボート部員らが参加。浸水した同市吉田町西小路の村井幼稚園の平山和恵園長（61）は「昨日までは職員と保護者のお母さんで作業し力仕事ができなかった。本当に助かる」と感謝していた。

野球部1年の土居毅人さん（16）は「やっと来られた。動けるだけ動いて力になりたい」。同部マネジャーで3年成合紗耶さん（17）は「自転車で来た。重労働だが、時間を見つけて今後も参加し続けたい」と笑顔で話した。

同社協の島忠史さん（43）

は「休日にはさらに増えるはず。必要な場所に必要ない力を注げるよう、人員配置の調整を徹底したい」としている。

大洲市社会福祉協議会は10日、同市東大洲の市総合福祉センターに「災害ボランティアセンター」を開設した。被災者のニーズとボランティア活動をマッチングする。被害が規模で人手不足などとして、ボランティアの募集を当面、愛媛のほか徳島、香川、大分、宮崎と想定している。

初日は、高齢者から家具の移動や掃除、土砂の片付けなど34件の依頼があり、ボランティアは県内を中心に61個人・団体（計82人）が登録した。

問い合わせはセンター＝電話080（5076）9426、0893（23）0313。

（山内拓郎、本橋隆太）

復旧へ大粒の汗

大洲・西予・宇和島

三連休明けの14日、甚大な被害を受けた大洲、西予、宇和島の市町と県内各地では、大勢の人が駆け、作業に動いた。大粒の汗を流しながら奮闘するボランティアの姿など色々と紹介する。



家財道具を 壊れそうで使えなくなった家財道具を軽トラックに積み込んで運ぶ。14日午後、大洲でボランティア（大洲・西予市町）



一息ついて 「疲れたけど、みんな頑張ったからさあ、みんなで一息ついて」14日午後、西予市町町の町民（大洲・西予市町）



力を合わせ 大洲市でボランティアの皆さんが、大粒の汗を流しながら作業に動いた。14日午後、大洲市町



泥かき出す 大洲市でボランティアの皆さんが、大粒の汗を流しながら作業に動いた。14日午後、大洲市町



続く作業 大洲市でボランティアの皆さんが、大粒の汗を流しながら作業に動いた。14日午後、大洲市町

放っておけない

県内豪雨災害
ボランティア続々

土砂撤去や水くみみ奔走

「一歩でも前に進んでほしい」。数日流れ込んだ土砂に、散らかった家
まの隅に、遠方から来る被災者を介してでも通らなければならぬ。14日の県内豪雨災害には
多くのボランティアが駆けつけた。県内外から集まった1000人以上のボランティアは
大食力となり、背負えない土砂を運び出す。土砂撤去のボランティアは、14日（土）も続いた。

大洲

大洲市東大洲の市社給湯

被災者支援ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内



④大洲の土砂をシャベルで取り除くボランティア。14日午前、大洲市東大洲市社給湯（撮影：中田保知子）⑤水くみを始めた大洲市の後援地区で、東大洲市社給湯をボランティア。14日午後（撮影：大洲市社給湯）

大洲市東大洲の市社給湯
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

大洲市東大洲の市社給湯
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

大洲市東大洲の市社給湯
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

大洲市東大洲の市社給湯
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

大洲市東大洲の市社給湯
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

宇和島

宇和島市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

宇和島市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

宇和島市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

宇和島市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

宇和島市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

西予

西予市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

西予市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

西予市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

西予市の災害ボランティア
センターでは、午前9時の
受け付け前からの長蛇の列が、田、地木の3地区に重なる
で、10時すぎには受け入
れた。14日は市内

奉仕暑さと闘う

大洲35.5度 西予34.2度

冷えた飲料・休憩欠かせず

を手伝う。元気の源は母親の友人藤原恵さん（44）＝同市肱川町中居谷＝から届く水で冷やした飲料水だ。暑すぎ、藤原さんが勤め先の豆腐店からもらった水数本を車で運んできた。「互いの子どもが仲良しだから、こんなときはお互いさま」。

近くコンビニはなく、電気は復旧したが冷蔵庫は水没して使えない。岩田さん親子によると、被災直後は店内が泥まみれ。荷物の運び出しが大変だったが、水の差し入れのおかげで乗り切れたという。「飲み物が冷たいと（心身ともに）生き返ります」と感謝する。34・2度を記録した西予市・肱川（宇和川）の氾濫で甚大な被害を受けた同市野村地域では、自宅が2階まで浸水し野村中学校で7日から避難生活を送る主婦

野村町野村＝は一時帰宅し、「小まめに休んで水分を取るようにしている。いろんな人が避難所に水を運んでくれるので助かる」と片付けに精を出した。一方、支援者の暑さ対策も重要だ。宇和島市社会福祉協議会の松井尚史係長によると、飲み物を1人1・5リットル以上持ち、30分活動した後は20分の休憩を挟んでもらうようにしている。交代で無理なく活動できるように」と受け入れ側の希望より多くの人数を派遣するという。

16日までに宇和島市のボランティアで、熱中症などで搬送された人はいなかった。32・7度だった19日には、救護班として現場を巡回した高知県立天太学院生の野島真美さんによると、外で作業をしていた男子中学生2人が顔真っ赤にすると熱中症の症状を示した人がいたという。野島さんは「スポーツドリンクなどをしっかりと取って無理しすぎないように」と呼び掛けていた。

（伊藤一紀、多和史人、梅本美和）

酷暑が続いた3連休。甚大な被害を受けた雨予の各地では、被災者やボランティアは暑さと闘いながら、生活復旧に向けて力を尽くした。

大洲市は16日、最高気温35・5度を記録。大洲インターチェンジから車で約30分、鹿野川ダムの目と鼻の先にある道の駅「清流の里ひじかわ」に入る飲食店「味人」は7日、床上約1・5メートルまで水に漬かった。

経営者の孫・内子高1年岩田永達さん（15）＝同市肱川町名荷谷＝は母恵梨香さん（35）らと8日から片付け



暑い暑さの中、ボランティアで配られたかき氷＝16日午後、宇和島市吉田町立前院（撮影・梅本美和）

これまでに参加したボランティアのメッセージが書き込まれた宇和島市災害ボランティアセンターのボード＝19日午後、同市住吉町1丁目



西日本豪雨

求むボランティア

宇和島市 受け入れ 全国に拡大

西日本豪雨で甚大な被害を受けた宇和島市で、災害ボランティアが不足している。市災害ボランティアセンター（住吉町1丁目）は当初、土砂崩れなどで道路が通行止めになったことから混乱を招かないよう受け入れ対象を市民限定としていたが、16日の国道56号の通行再開を受けて全国に拡大。「一人でも多く参加してもらえれば」と呼び掛けている。（1面参照）

ボランティアの受け入れは10日に開始。道路の通行状況を勘案しながら、個人の募集対象を市民限定から四国在住、全国へと徐々に広げた。

センターによると、14、15日の3連休は415人、374人、305人と平日より多くのボランティアが集まった。しかし、家屋の土砂撤去などの要望の急増に追いつかず、現在は住宅での作業に限って受け付け、店舗や倉庫などには手が回っていない。暑さで活動時間も限られ、1日では作業が完了しない家が多く、新規の要望には応えられていない状況という。

センターは、1日に400人のボランティアがいれば約50件に対応できると説明。現在多いのは土出し、ごみの片付けと搬出だが、今後断水が解消されれば水を使う片付け作業の依頼も増えるの見込み、より多くの参加を求めている。問い合わせは同センター専用回線―電話0895（23）3781、0895（23）3782。（中田佐知子）

ボランティア 課題浮上

派遣人員不足や偏り

豪雨被災地

多くのボランティアが汗を流す西日本豪雨の被災地だが、住民からは「必要な場所に助けがない」という声も上がる。熱中症や二次被害の懸念や交通事情もあるが、人員自体の不足や、行き先の偏りといった課題も指摘されている。

傾斜のある土地に住宅が並ぶ広島市安芸区。坂を上り細い道を抜けた先で、主婦河上勝子さん(56)が壊滅した家を黙々と片付けていた。周囲の家などに被害は少なく、局所的に裏山の土砂被害を受けた可能性が高い。

河上さんは何度もボランティアを依頼したが派遣されず、家族らと約2週間かけ玄關から風呂場までの通路をやっと確保した。手伝いにきた小学校のPTA会長丸子健太さん(40)は「地元でも分かりにくい場所では。こういう家はまだあるだろう」と指摘する。

県のボランティアセンター担当者は「要請には積極的に派遣したい」としているが、まだ避難情報が出ている地域や、自衛隊などの大規模復旧が続く場所には

危険もあり、広島市社会福祉協議会の若佐健司さん(48)は「二次被害を出すわけにはいかない」と話す。

甚大な浸水被害の出た岡山県倉敷市の真備町地区では21、22日、至る所でボランティアが家財の運び出しなどを手伝った。ただ被災者からは「3日前から頼んでいるのに来ない」という苦情もある。

派遣先を振り分ける担当者によると、1軒ずつ順番に回るため、何日か待ってもらう家もあるという。隣接する総社市社会福祉協議会の

中井俊雄事務局長は「熱中症対策で30分作業したら30分休む。何人いても多すぎることはない」と話す。一方、両市に隣接する矢掛町ではほとんどの日で必要数を上回る。ほかの市を

紹介することもあるという。担当者は「せっかく来てもらって気の毒だが、活動してもらった場所がないことがある」と悩ましかった。

「まだ住宅被害の全容をつかめていない。人手も全然足りてない」。宇和島市ボランティアセンターの渡辺正人事務局次長は頭を抱える。同市では土砂崩れで浄水場が破損し、約4800戸で断水状態が続く。寸断した道路が復旧し、ようやく全国から支援の手が入り始めたばかりだ。

愛媛県社会福祉協議会の

職員は「遠方からはアクセスのしやすさを優先すること多い。地域間に格差が生じることもある」と話している。

松山—宇和島 無料送迎バス



宇和島市で災害ボランティアの作業をするため
バスに乗る参加者—27日朝、松山市堀之内

西日本豪雨の宇和島市で
のボランティア活動支援の
ため県は27日、松山—宇和
島間で無料送迎バスの運行
を始めた。被災地の力にな
ろうと集まった13～69歳の

52人が早朝、松山市堀之内の城山公園を出発した。8月12日まで毎日運行予定。27日は帽子を被りリュックを背負った希望者が午前7時の受け付け前に続々集合。柔道部仲間らと一緒に愛光高1年山下将馬さん（16）は「被災者は体力でも精神面でも大変と思うので助けになりたい」と話し、松山市の老人ホーム職員渡部浩二さん（57）は「被災地に知人もいる。何か力になれば」と意気込んだ。

一行は宇和島市災害ボランティアセンター（住吉町1丁目）に到着後、作業内容の説明を聞き、土砂災害が多数発生した吉田地域への移動。センターの担当者は、現地は断水で泥のかき出しが困難な地区や、最近まで通行不能だった現場があると説明。「ニーズはたくさんあり、（バスは）とても助かる」と話した。

運行情報は県ホームページなどに記載。前日午後5時までに申し込みが必要で問い合わせは松山市社会福祉協議会（電話089（921）2141）。

28日は運行予定だが、宇和島市に大雨注意報が発令された時点で作業を中止する。29日は台風の影響で運行を中止する。（松本尚也）

県内豪雨 宇和島VC再開 ギャップ解消目指す

ニーズ把握へ ローラー作戦

お盆期間中に休止していた宇和島市災害ボランティアセンター（VC、同市住吉町一丁目）が17日、ボランティアの受け付けを再開し、市内外から大学生や社会人約100人が駆けつけた。今月中旬からは、ボランティア参加者らによる地域住民へのニーズの聞き取りも進めていて、大小さまざまな要望を掘り起こそうと、ローラー作戦を展開している。

（1面参照）

市VCではこれまで、自治会長らが各地区で行まとめた情報や被災者からの電話相談などを通じてニーズを把握。VCの存在やボランティアの要請方法の周知不足もあり、把握するニーズと現場の実態にギャップが生じていた。8月初旬からは、ニーズが落ち着いたとしてボランティアの受け入れ範囲や人数を制限していたが、疑問の声も寄せられていた。

そこで、市VCは11日からニーズ把握活動として「ちうしボスティング作戦」を開始。ボランティアや社会福祉協議会職員が3人1組のグループをつくり、吉田地域の被災者宅などを戸別訪問している。

17日は市内外の社会福祉協議会が4班に分かれ、立間地区などを歩いて回った。住民に「お困りごとはありませんか」と声をかけて被災状況などを確認。会話を通じて細かなニーズのほか、心情や将来への不安など

どに耳を傾けていた。農道沿いの車庫が土砂崩れで被災したという山口光英さん（50）は「二人ではどうしようもないことが多い。直接聞いてくれるのはありがたい」と安心。上島町社協から応援で宇和島入りしている福田広寿係長は「目に見えないニーズが随分いるので、被災者と顔を向き合わせるのは非常に大切なと感じた」と汗をぬぐった。

宇和島市VCでは引き続き個人（四国限定）、団体（全国）からのボランティアを受け付けている。18日以降も随時、ニーズの聞き取り調査を実施する。問い合わせは市VC専用回線＝電話0895（23）3781、0895（23）3782。

（石田一真）



地域住民（右）にボランティアの情報を説明するスタッフ
＝17日午前、宇和島市吉田町立間屋

豪雨経験 次につなぐ

大分・日田から宇和島・吉田へボランティア

バス運行 復旧支援 ニーズ拾い活動支える

2019年と17年に発生した九州北部豪雨で土砂災害に見舞われた大分県日田市から、四日本豪雨で甚大な被害を受けた宇和島市に支援の手が差し伸べられている。被災した人や支援に携わってきた団体などが心を寄せ、経験を生かし復旧・復興を後押ししている。

（3面要約）

「支援を受けてきた人が、恩返ししたい。自分たちの経験を次の被災地につなげたい」と動いてくれている。宇和島市吉田町で活動する日田市災害ボランティアバス運行に携わる日田市災害ボランティアネットワーク連絡協議会の松永謙次朗会長（58）は語る。

松永さんは17年の災害を受け、被災したボランティアネットワーク「ひちくボランティアセンター」（日田市）事務局も務め、7月12日、宇和島の現地調査へメンバーと向かった。

松永さんによると、吉田の状況は土砂崩れなどが似ているものの、場所的だった日田市に比べ被災箇所が広範囲に点在。日田市では道路から一見して被災の有無が確認できたが、吉田は住宅裏に回って初めて土砂が家屋内に流れ込んでいたのが分かる事例もある。

避難所やボランティアセンター（V.C.）の開設状況などを確認し「マンパワーが不足している」。7月17日夜に日田市内で報告会を開くと、市民から現地で活動したいという声が上がった。



定例の除去などに携を出す大分県日田市からのボランティア参加者。19日午前、宇和島市吉田町立川（撮影・梅木実和）

日田市と同協議会、日田「く」が共催し、20日からバス

ス運行を始めた。8月10日までは毎日実施し、延べ約170人が参加。17日から毎週土日に活動する第2弾のバスを走らせている。

「ひちく」は現場コーディネーターとして、宇和島市災害V.C.が実施するニーズの振り起こし調査に協力。水や泥が入り込んだ家屋のチェックポイントなどを助言しながら地域を回る。要望のあった家では必要人数や資機材の見立てを行い、当日はボランティアに作業の段取りを伝えるなど円滑な活動を支えている。

18日夜に出発したボランティアバスに参加者は、宇和島市吉田町立川の荒廃地区で床下の泥出しや清掃に従事。床を剥ぎ泥出しが済んだ家屋では、こびりついた泥をかき取ったり雑巾で拭いたりした。床上浸水の被害に遭った経験のある坂本蘭子さん（45）は日田市豆田町。バスは「ボランティアを頼んだときに真っ先に来てくれたのが県外の人。もっと大変な人がいる」と思い、依頼しにくかった」と振り返り、被災者に思いを寄せた。

松永さんは、今後は被災住民の最後までフォローや関係活動など、さまざまなニーズが出るとし「V.C.が開くときは『もうここは大丈夫なんだ』と思われボランティアが手を引く契機になる」と警鐘を鳴らす。

日田市では豪雨から2カ月後の市V.C.閉所を受け、行政や社会と連携した被災者ニーズへの対応やボランティアの受け皿づくりを目的に、市に拠点を置く四つのNPO団体などが「ひちく」を立ち上げた。松永さんは、宇和島でも市V.C.の役割を引き継ぐ地元団体の必要にならざるを得ない。受けた情報の信頼性をしなないと、どんどん風化する。長くボランティアが関わる仕組みづくりが必要」と力を込めた。

（中田依知子、梅木実和）

宇和島・吉田の高齢者サロン 「恩送り」支援で復活 九州から温泉や果物

西日本豪雨

西日本豪雨の被害を受けた宇和島市吉田町内では、地区の公民館にも土砂が流れ込み、毎週開いていた高齢者サロンが休止に追い込まれた。家に閉じこもりがちな住民に集いの場を提供しようと、被災経験のある九州の

ボランティア団体が支援に立ち上がり、12日、約2カ月ぶりに復活した（1面参照）。10年ほど前から続くサロンは住民同士の手を強める大切な時間。週に2度、高齢者が河内上公民館や近くの民家の倉庫に集って健康体操を行ったり食事を共にしたりしてきた。開始当初から世話人を続ける中川登志さん（90）と長山紀子さん（91）は「豪雨後はみんな落ち込んで、やめる一手前になった」と明かす。「復活サロン」は、大分、福岡両県の団体の計10人が宇和島市社会福祉協議会と連携して実施した。豪雨でたびたび被災した大分県田市の「ひちくボランティアセンター」事務局の松永健太さんは、「被災生活で気が休まらない中、一度息抜きをすることが必要。地元の人たちが集う場をつくり、元気付けになれば」と支援に至った思いを語る。12日は、民家の倉庫に集

い、トラックで運んだ白田市天ヶ瀬温泉の湯を使った足湯やハンドマッサージなどを提供。九州の被災農家から寄せられたナシやアブワも届けた。ボランティアらは住民に寄り添って不安や悩みなども聞き取った。結核男性は「足湯で体がすーっと楽になった。盆踊りや地域の縁起が中止になりみんなで集まる機会もなかったのだからいい。元気になる」と話し、笑顔に包まれた会場。目を細めた。2017年の九州北部豪雨で大きな被害を受けた福岡県朝倉市の「熊本復興支援ベース」の職員代表は「熊本にも被災経験のある全国の人が支援に来てくれた。その恩を次の被災地の人たちに伝える『恩送り』なんです」と話し、近いうちの再訪を誓っていた。

中川さんと長山さんは「みんなの笑顔を見てほっとした。高齢者は家におって笑うことも少なく、免許



●ボランティアが提供した足湯で笑顔を見せる高齢者ら●2カ月ぶりのサロンで笑顔を見せる高齢者ら（12日午後、宇和島市吉田町公民館）

西日本豪雨 被災の宇和島・吉田 生活支援拠点が始動

見守りや相談絆づくり…

市社協7人展開迅速

西日本豪雨で被災した住民の生活再建を総合的に支援する「宇和島地域支え合いセンター」が1日、同市吉田町東小路の市社会福祉協議会吉田支所に開設された。甚大な被害を受けた同市吉田地域に支援拠点を置くことで、迅速なサポート体制の構築を図る。

（3面参照）



応急仮設住宅の住民（左）に体調などを聞き取る
「宇和島地域支え合いセンター」のスタッフ

＝1日午前、同市吉田町西小路

センターは市社協が市から委託を受けて運営し、7人のスタッフ（うち5人が専任）が従事する。支援対象は応急仮設住宅やみなし仮設住宅などで暮らす被災者ら約600世帯。見守りや生活相談のほか、地域コミュニティづくりに向けたイベントやサロン活動などを展開する。市社協本所に構えていた市災害ボランティアセンターの業務も引き継いだ。

開設式では、岡原文彰市長と市社協の岡野昇会長が、支所入り口に真新しい看板を設置。センター長を務める市社協地域福祉課の山本裕子課長は「行政との連携を深め、被災者に対する細く長い支援に努めたい」と話した。

同日は早速、生活支援相談員と市の保健師計3人が同市吉田町西小路の応急仮設住宅を戸別訪問。「体調はどうですか」「台風24号の影響はなかったですか」と声を掛け、住民が不安や悩みを抱えていないかなどを確認していた。

同市吉田町立間の自宅が半壊し、仮設住宅に移った赤松洋子さん（84）は「独り暮らしで孤独を感じることもあるので、コミュニケーションを取っていただけでもありがたい」と表情を和らげていた。

（石田一真）

【様 式 集】

今回、宇和島市災害ボランティアセンターでは、事前にマニュアルで準備していた指定様式を、実態に合うようにスタッフ間でその都度話し合い、内容変更や新たな様式を追加していききました。

また、大きくホワイトボードに記載し見える化を図ったものやニーズ票・報告書についても、何を聞き取れば良いのか日々、工夫しながら修正を加えていききました。

今後の参考となるようにまとめたものです。

- ・ 災害ボランティアがお手伝いに伺います。
- ・ 災害ボランティア募集のお知らせ！
- ・ 災害ボランティア登録カード
- ・ ニーズ受付カード
- ・ ボランティア活動報告書
- ・ 資材貸出票
- ・ ボランティア活動証明書
- ・ スタッフシフト表
- ・ マッチング表（配車計画）
- ・ 拠点情報等
- ・ ボランティア報告等

災害ボランティアがお手伝い に伺います。

西日本豪雨災害により、被害を受けたお宅に、災害ボランティアがお手伝いに伺います。ボランティアのお手伝いを希望される方は、宇和島市災害ボランティアセンターまでお申し込みください。

（被害の状況、希望日時、連絡先をお知らせください。）

受付時間

電話・来所・・・８時３０分～１７時まで

F A X・・・２４時間対応（１７時以降の着信は、後日確認になります。）

ボランティア活動の例

- ・室内清掃
 - ・土砂除き
 - ・家具・ゴミ等の搬出
 - ・家周り等の清掃
- など

※ボランティアでは、ご要望にお応えできないお手伝いもありますので、あらかじめご了承ください。

宇和島市災害ボランティアセンター（宇和島市社会福祉協議会）

T E L 0895-23-3711 F A X 0895-24-1198

宇和島市住吉町６番１６号 宇和島市総合福祉センター内

ホームページ <http://www.uwajima-shakyo.or.jp/>

Eメール fukushi.wel@uwajima-shakyo.or.jp

災害ボランティア募集のお知らせ！

7月7日、西日本豪雨災害により、多くの方が被害を受けました。

これに伴い、ボランティアを全国から募集いたします。ボランティア活動をご希望される方は、下記宇和島市災害ボランティアセンター（宇和島市社会福祉協議会）までご連絡ください。

みなさまのあたたかいご支援をお待ちしています。

受付

- ・受付時間 8：30～11：00
- ・活動時間 9：30～16：00
- ・募集期間 平成30年7月9日（月）から当面の間

なお、状況に応じて、変更や延期をさせていただくこともあります。

活動内容

- ・室内清掃
- ・土砂除き
- ・家具・ゴミ等の搬出
- ・家周り等の清掃 など

準備物（ボランティア本人が、お持ちください。）

- ・長靴 ・ゴム手袋 ・防塵マスク ・防塵めがね ・飲食物 ・タオル ・帽子
- （携帯電話、小銭、筆記用具、メモ帳、保険証のコピー、着替え、常備薬、懐中電灯
ウェットティッシュ、消毒用アルコールスプレー など）

駐車場

自家用車の方は、宇和島市 総合体育館の駐車場をご利用ください。

※ボランティア活動に際し、食費・交通費・宿泊費等が発生する場合は、原則として、ボランティア本人の自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。

宇和島市災害ボランティアセンター（宇和島市社会福祉協議会）
TEL：0895-23-3711 FAX：0895-24-7889
災害 VC 専用回線：0895-23-3781 / 0895-23-3782
宇和島市住吉町一丁目6番16号 宇和島市総合福祉センター内
ホームページ <http://www.uwajima-shakyo.or.jp/>
Eメール fukushi.wel@uwajima-shakyo.or.jp

災害ボランティア登録カード

新規	継続	受付番号〔 〕						
ふりがな 氏 名			性別	男 ・ 女	年 齢	歳	血 液 型	型
連絡先（本人）		住 所：〒 電話番号： () 携帯電話： ()						
緊急連絡先 （本人以外）		住 所：〒 電話番号： () 携帯電話： ()						
所属(ボランティア 団体・企業名)								
災害ボランティア 活動経験の有無		☐ 有 ☐ 無						
ボランティア保険 の加入		☐ 加入している ☐ 加入していない						
活動可能期間 （予定）		年 月 日 ～ 年 月 日						
資格・特技等								
備 考								

※この登録カードに記載された情報は、宇和島市災害ボランティアセンターが行う
災害ボランティア活動以外には、利用いたしません。

ニ ー ズ 受 付 カ ー ド

ニーズ受理番号〔 〕

受付日 月 日 時 分
(受付者：)

活動希望日	平成 年 月 日 午前・午後 時
活動場所	自宅 ・ その他：
被災状況	☐ 全壊 ☐ 半壊 ☐ 床上浸水 ☐ 床下浸水 ☐ その他：
依頼内容	☐ 室内清掃 ☐ 土砂除き ☐ 家具・ゴミ等の搬出 ☐ 家周り等の清掃 ☐ その他：
派遣希望	男____名 女____名 合計____名
必要資材	☐ スコップ ☐ 一輪車 ☐ バケツ ☐ ブラシ ☐ 雑巾 ☐ 土のう袋 ☐ その他：
世帯の状況	☐ 高齢者世帯 ☐ 障害者世帯 ☐ 未就学児あり ☐ その他 具体的に：

現場環境	①トイレ ☐ あり（通常使用可・水必要） ☐ 徒歩__分に仮設 場所： ☐ なし ☐ その他： ②水 ☐ 作業用水あり（井戸水・その他 ） ☐ なし ③車（移動） ☐ 可 ☐ 不可： ④車（駐車） ☐ 可 ☐ 不可： ※作業当日は、依頼者や所有者の方に現場の立会いをお願いします。
------	--

【活動場所の所有者】

名前		性別	男・女	年齢	歳
住所					
電話番号			備考		
避難場所					

【依頼者】

名前		性別	男・女	年齢	歳
住所					
電話番号			備考		
避難場所					

※このカードに記入された情報は、ボランティアセンターに貼り出しボランティア募集に利用します

受理番号：〔 〕 ※受理番号はニーズ受付カードと同じ番号

ボランティア活動報告書

活動メンバー	〔リーダー氏名： 携帯番号： 〕 〔計 名〕		
活動日時	月 日（ ） 午前・午後 時 分 ～ 午前・午後 時 分		
活動場所	〔被支援者（家主等）： 〕 〔計 件〕		※複数あれば 特記事項に記入
被害状況	建物	☐ 全壊 具体的に： ☐ 半壊 具体的に： ☐ 床上浸水 ☐ 床下浸水 ☐ その他〔 〕	
	道路	☐ 自動車で通れる ☐ 通れない ☐ その他〔 〕	
	作業用水	☐ 使用可 ☐ 使用不可 ☐ その他〔 〕	
	トイレ	☐ 使用可 ☐ 使用不可 ☐ その他〔 〕	
活動内容 1	☐ 室内清掃・片付け ☐ 土砂除き ☐ 家具・ゴミ等の搬出 ☐ 生活援助〔具体的に： 〕		
活動内容 2	☐ 指示どおり ☐ 指示以外あり ☐ 指示なし ☐ 全く違った 指示以外及び違った内容		
活動結果	☐ 活動終了〔ボランティアの派遣の必要なし〕 ☐ 被支援者 or 依頼者から活動継続の要望あり〔希望人数： 名〕 ☐ ボランティアから見て要継続 〔必要人数目安： 名〕 ☐ その他〔 〕		
感想・意見 特記事項			

事務局記入欄	確認日時	月 日（ ） 時 分	確認者氏名	
	資材	どこの資材を使用したか？：		
		どこに戻したか？：		
		次回必要な資材（不足している資材）：		
	土のう・ゴミ等の撤去の必要		なし・あり（回収場所： 〕	
	〔継続の場合、次回の作業内容など〕 _____ _____ _____ _____			

資 材 貸 出 票

(月 日受付分)

災害ボランティアセンター

貸 出	資材班受付者	時 間	返 却	資材班受付者	時 間
グループ リーダー名					
移動車両 掲示表	枚				
特記事項					

貸出資材一覧

資材名 (泥のけ)	数量	資材名 (清掃)	数量	資材名 (清掃)	数量
一輪車		バケツ		水タンク	
平スコップ		ゴム手袋 (薄手)		高圧洗浄機	
剣スコップ		デッキブラシ		ゴミ袋	
バール		洗車ブラシ		土間ぼうき	
丁能クワ		たわし		松葉ぼうき	
クワ		雑巾(ウエス)		竹ぼうき	
土のう袋		ちり取り			
てみ		洗車ブラシ			
長靴 (24.5)		くつブラシ			
長靴 (27.0 以上)		火ばさみ			
ゴーグル		ドライワイパー			
		アルコール消毒			

ボランティア活動証明書

平成 年 月 日

住所 _____

氏名 _____ 様

宇和島市災害ボランティアセンター
社会福祉法人 宇和島市社会福祉協議会
会 長 岡野 昇

上記の者は、宇和島市災害ボランティアセンターで受け入れたボランティアとして下記のとおり活動したことを証明します。

記

1 災害名	西日本豪雨災害（平成 30 年 7 月豪雨）
2 活動地域・場所	愛媛県宇和島市
3 活動期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
4 活動内容	☐ 土砂除き ☐ 室内清掃 ☐ ごみ等の搬出 ☐ 家周りの清掃 ☐ その他（ ）

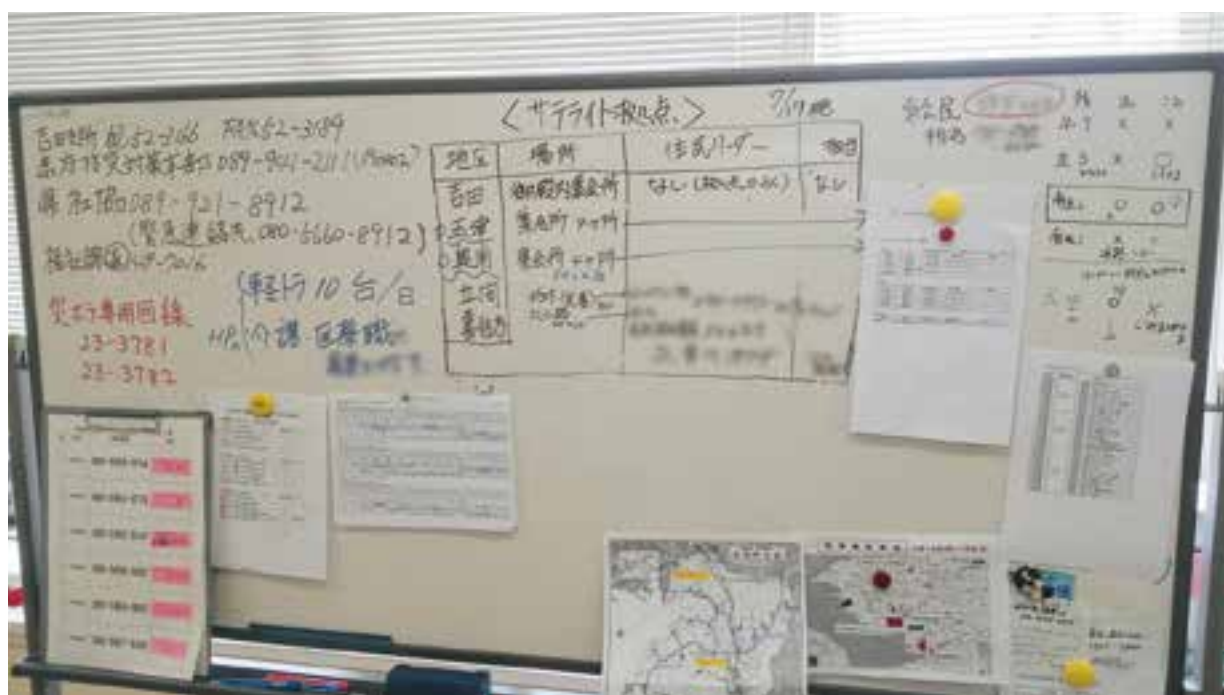
スタッフシフト表

[illegible]

マッチング表（配車計画）

[illegible]

拠点情報等



ボランティア報告等

ボランティアバス 8/20(月)

① 松山ボラバス 34人

② 愛媛大学(教職員・学生合同) 11人

バス以外 高知大学防災部と連携 12人

確定値

8/10(日)

ボランティア 238人
活動件数 29件
記録 10件
(70件+34件)

吉田 14件 107人
立間 9件 71人
喜佐方 2件 30人
奥南 0件 0人
玉津 4件 20人
三内 0件 0人
市内 0件 0人

0エリアの427

8/20(月)

ボランティア 110人
活動件数 13件
記録 7件
(35件+54件)

吉田 5件 20人
立間 8件 35人
喜佐方 0件 0人
奥南 1件 11人
玉津 2件 34人
三内 0件 0人
市内 0件 0人

検証シート

テーマ「宇和島市災害ボランティアセンター（VC）を振り返って」

1. 所 属	
2. 氏 名	
3. 良かったこと	(災害VCの良かった点)
4. 課題	(災害VCの運営や係わりを通じた課題)
5. 今後必要なこと	(課題の解決方法や今後の備えに必要なこと)
6. 自由意見	(今回の経験で思ったこと・気付いたこと・臨機応変に対応できたことなど)

宇和島市災害ボランティアセンター内部検証会議

所属	職名	氏名	備考
事務局（総務課）	事務局次長（兼）総務課長	渡辺正人	
総務課	総務係長	松田伸一	
総務課	総務係主事	井伊祐子	
総務課	総務係主事	金谷美佳	
総務課	事業管理係長	畠山顕治	
総務課	事業管理係主事	清家正崇	
地域福祉課	地域福祉課長	山本裕子	
地域福祉課	第 1 地域福祉係長	松井尚史	
地域福祉課	第 2 地域福祉係長	岩藤孝一	
地域福祉課	地域福祉係主事	藤原雄悟	
地域福祉課	地域福祉係主事	山下唯	

宇和島市災害ボランティアセンター外部検証会議

所属	役職	氏名	備考
宇和島市危機管理課	危機管理係長	清家敦	
宇和島市福祉課	障害福祉係長	岡原仁志	災害ＶＣ派遣職員
宇和島市商工観光課	商工係主任	相山孝章	災害ＶＣ派遣職員 危機管理経験者
公益社団法人 宇和島青年会議所	2018 年度理事長	久徳壮一郎	株式会社アクティブモア
公益社団法人 宇和島青年会議所	うわじま創造委員会 委員長	白石雅史	
公益社団法人 宇和島青年会議所	うわじま創造委員会 副委員長	正木聖二	
宇和島信用金庫	常勤理事 業務推進部長	夏井伸一郎	
天理教	災害救援ひのきしん隊 本部主事	佐々木茂	清満分教会七代会長
社会福祉法人 宇和島市民共済会いこい	施設長	家田基行	
ひちく ボランティアセンター	スタッフ	松永鎌矢	
災害ＮＧＯ 結	代表	前原土武	
一般社団法人 OPEN JAPAN	副代表	肥田浩	
高知県産業振興推進部 計画推進課地域支援企画員	総括	山崎水紀夫	災害ボランティア活動支援 プロジェクトメンバー
愛媛県社会福祉協議会 愛媛県地域支え合いセンター	コーディネーター 宇和島市担当	高田敬士	

○宇和島市社協

所属	役職	氏名	備考
役員	常務理事（兼）事務局長	石崎甚郎	
事務局（総務課）	事務局次長（兼）総務課長	渡辺正人	
地域福祉課	地域福祉課長	山本裕子	
総務課	総務係長	松田伸一	
総務課	事業管理係長	畠山顕治	
地域福祉課	第１地域福祉係長	松井尚史	
地域福祉課	第２地域福祉係長	岩藤孝一	

宇和島市災害ボランティアセンター課題検討会議

所属	役職	氏名	備考
高知県産業振興推進部 計画推進課地域支援企画員	総括	山崎水紀夫	災害ボランティア活動支援 プロジェクトメンバー
コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do	代表	栗原英文	災害ボランティア活動支援 プロジェクトメンバー (SC トータルアドバイザー)
災害情報支援ポータル 浦安市社会福祉協議会 災害ボランティアセンター	代表 専門スタッフ	上村貴広	災害ボランティア活動支援 プロジェクトメンバー (SCアドバイザー)
ウェアザーハート 災害福祉事務所	代表	千川原公彦	
宮城県社会福祉協議会 震災復興支援室	主幹	北川進	
コミュニティ・４・チルドレン	福祉・防災学習 コーディネーター	菅原清香	
南三陸町社会福祉協議会	地域福祉係長	高橋吏佳	
亘理町社会福祉協議会	復興支援 コーディネーター	川端康裕	
愛媛県社会福祉協議会	地域福祉課主査	宮崎慎也	
愛媛県社会福祉協議会 愛媛県SC	コーディネーター	高田敬士	

※地域支え合いセンター略「SC」

○宇和島市社協

所属	役職	氏名	備考
役員	常務理事（兼）事務局長	石崎甚郎	
事務局（総務課）	事務局次長（兼）総務課長	渡辺正人	
地域福祉課	地域福祉課長	山本裕子	
総務課	総務係長	松田伸一	
総務課	事業管理係長	畠山顕治	
地域福祉課	第１地域福祉係長	松井尚史	
地域福祉課	第２地域福祉係長	岩藤孝一	

あとがき

平成30年7月西日本豪雨災害から1年が経とうとしています。

混乱状態の中、県内外から駆けつけてくださった多くの皆様にご支援をいただいた日々や、温かい応援の言葉に何度も何度も励まされたことが、今も鮮明に甦ります。

猛暑の中、皆様と一緒に被災者支援活動に従事した日々は、私たちにとってかけがえのない貴重な経験となり、感謝の念に堪えません。

なお、この報告書はその経験を記録に残し、検証し、活かして、少しでも災害に強い職員や組織になることが、ご支援いただいた皆様への恩返しにも繋がると信じて、作成に取り組みました。また、ご一読いただきました皆様に、一片でもお役に立てることがありましたら幸いです。

最後に、報告書作成にご理解とご協力をいただきました方々に対し、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

宇和島市災害ボランティアセンター

令和元年6月1日発行

編集・発行 社会福祉法人宇和島市社会福祉協議会
〒798-0003 愛媛県宇和島市住吉町一丁目6番16号
(宇和島市総合福祉センター内)

TEL0895-23-3711 FAX0895-24-7889

URL <http://www.uwajima-shakyo.or.jp/>